

地震災害「自助力」チェック (案)

2022年6月19日
妙見坂地区防災会

「妙見坂地区/自宅/周辺」の地震リスクと自助

◆震度6～7の地震が発生したらどうするか。「妙見坂、自分の身のまわり」に絞って、まず簡単にできること、最小限のことから考える！ 妙見坂では地震発生、すぐ避難というわけではありません。まずは、とっさの判断で自分の身を守る、そのあと生き延びることを考えましょう。

『死なない、大ケガしない、7日間生き延びる』ために…

▼発災直後、どのような備えができるか、チェックと実践を!

●死なない／大ケガしないために…

1. 家の中で、どこがキケンか、少しでも安全な場所はどこか？
・「倒れる、動く、落ちる、割れる」モノは？
2. キケン状態を想定し、とっさの行動を考えておく
・寝る時の回りには、下敷きになる物はないか
・枕元には、履き物、懐中電灯を
・部屋の出口、家からの出口を確保する
3. 家の外回りで危ない場所、落下物、倒壊はないか？

●7日間生き延びるために…

1. 飲み水： 1人1日3L、人数×7日分 _____
2. トイレ： 水道・下水道損壊時、トイレ処理7日分 _____
3. 食料： 最低3日間、7日間の備蓄で食いつなぐ _____
4. 水道： 風呂水の利用、生活水のやりくり _____
5. 電気： 乾電池、充電電池、懐中電灯 _____
6. ガス： カセットガスコンロ _____
7. 情報： 電話/携帯電話： つながらないときの連絡方法 _____
「災害伝言ダイヤル171」「災害用伝言板」、防災情報
:携帯ラジオ _____
:家族の連絡方法： 電話番号帳、電話機がないとき _____
8. 安全・救急： 初期消火： 消火器設置 _____
: 健康維持： 自分に必要な薬 _____

◆「身近な役立つ防災の知恵」を生かす。

以上

身の回りの災害リスクを考えるには、できることから

2022/06/19 妙見坂地区防災会

- ◆災害リスクが高くなっていると言うが、なぜ「自分事」として考えにくい？
 - ・地震対策というと、一般論が多い。この妙見坂の場所で何が必要か？
 - ・しなければならぬことが多すぎる。・どこまでやったら十分なのか分からない。
 - ・対策には費用と時間がかかる。・自分では簡単にできない。
 - ・備えは、どこまでやっても100%は不可能。
⇒すぐにできない⇒諦める⇒考えることをやめる。

▼そもそも災害など考えたくないこと、できそうにないことを考えようとするときらめや考えることをやめてしまう。

⇒**まずは、すぐできることから優先して考えましょう！**
少しでもリスクを軽減できればヨシ。

- ・地震発生時すぐに避難、避難所へというわけではない。
- ・地震発生直後に、すぐに非常持ち出しではない。自宅に勝る避難所なし。
- ・建物の耐震化と言うが、どこまでやるか？ 優先することは何か？
- ・震度6以上の耐震化をしても、建物以外のリスクは残る。
- ・家具の転倒防止対策は、言うほど簡単ではない。効果もバラツキあり。
やらないよりマシ。家は倒壊しなくても、中はグシャグシャ。
しかしケガなく生き残ればヨシとする。
- ・地盤、石垣、段差、土砂崩れ、屋根からの落下物、電柱倒れ、など
被害状況の程度差はあるが、被害ゼロということはない。

妙見坂地域で想定される具体的な被害とは？

- <地震>：南海トラフ巨大地震、生駒断層/上町断層 直下型地震
震度6～震度7の激震で大きな被害が発生するが、津波は来ない。
建物全壊、死者、重傷者の発生は多くはないであろう。
- <台風、水害>：天の川が氾濫してもこの地域に洪水、土砂崩れはない。
- <竜巻・突風>：発生しても地域全体が壊滅するような確率は低い。
- <地域全体>：地盤、石垣、段差、土砂崩れ、屋根からの落下物、電柱倒れ、
下水道/マンホール損壊、地域入り口の橋/道路損壊、車通行不能、地震火災、
等の災害共助活動の大きなリスクもある。
- ▼妙見坂の平時は安全な街ではあるが、いざ大災害に対しては未経験！
想定外のことは起きる。大きな混乱が予想される。
- ▼しかし、**まずは自助力によって、初期被害程度は低減できるはず。**
自助ができなければ、共助もできない！
- ▼地震の初期被害の中でも、自助の範囲は自助で何とか生き延びよう。
しかし、7日間サバイバルができて、以降の過酷な被災生活は続く。
ここからは自助の限界あり、公助・共助に頼らなければならない。

以上